

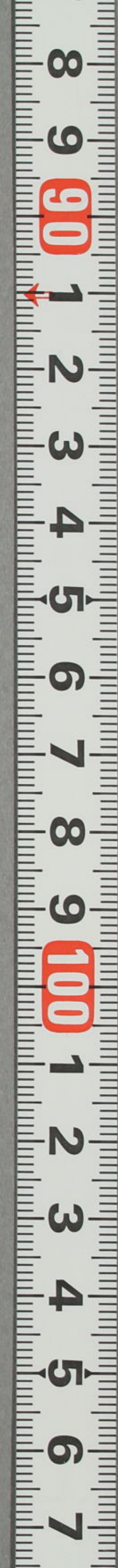
Gōkan: (No. 026)
 Katsushika Monogatari.
 Book 1--9.

葛の節子
 七

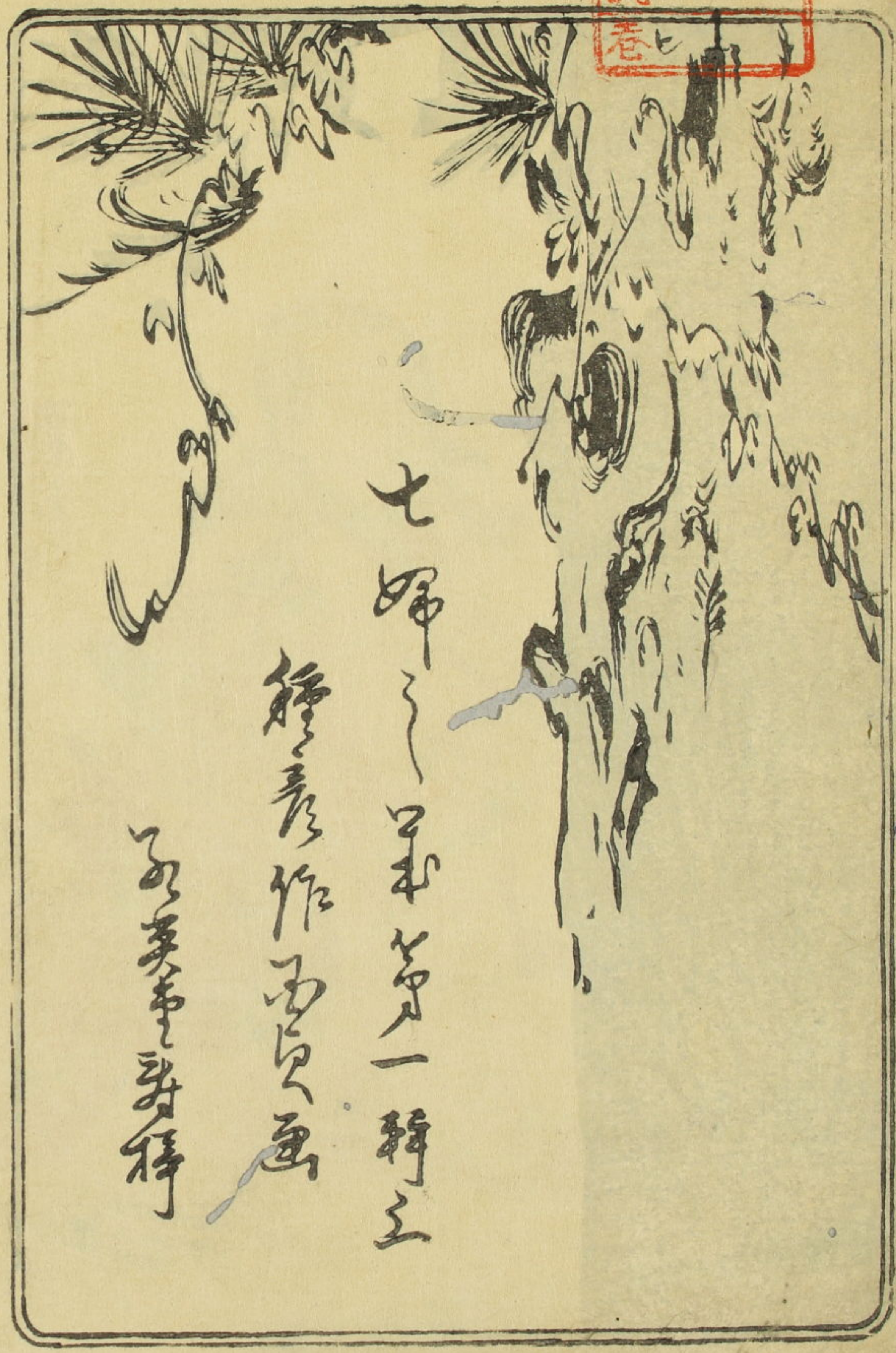
初編上



~ 13
 3732
 1



門 13
號 3732
卷



七婦 一冊 第一 種之

種之 作 西 貞 画

西 貞 画

一

七不思議云物 誠後元來を 諏訪青鹿島は有猶如々小あんがへ 近辺の
本所あり七ふりだ有と聞と今現見もあり 往昔の口碑ありて一柳世
小有と有森羅万象何物も凡慮の思議 得る事ありん悉皆不可思議あり
且他の上六指て自己身小ぢりて一と一と知覚べき事ありや一尺の物も一寸も
尺一寸ありあり理あり母胎内を出しより分毫も添ふる物ありて月日小成長し
小物の大さくあり何れは縮まり長くと延くと大さくはゆるり言とて手豆と動
屈伸座臥の自由あり 息衣着と木偶並に有と思ふと眼のくまを此と万物は
及りふりもを回め世と覺も又一とふりもは見聞も熟るる物の推し
けれども推し手は奇れた物とて明證で書と字の水の上も現るるも種と
まらぬ不可思議あり 諸所の七不思議も種とありんが
も其種の隠るるを見つて一部の草紙とらる其種彦
拙作の室も源氏の當りこそと一ツと梅禮とらる
珠にうねり賣出とる初篇物胡蝶巻の劣らぬ高評
謹で希ふらん

元治三年春正月
柳亭自序
國貞畫圖
南傳馬町
葛吉版

高市軍刃



須奈邨妖恠

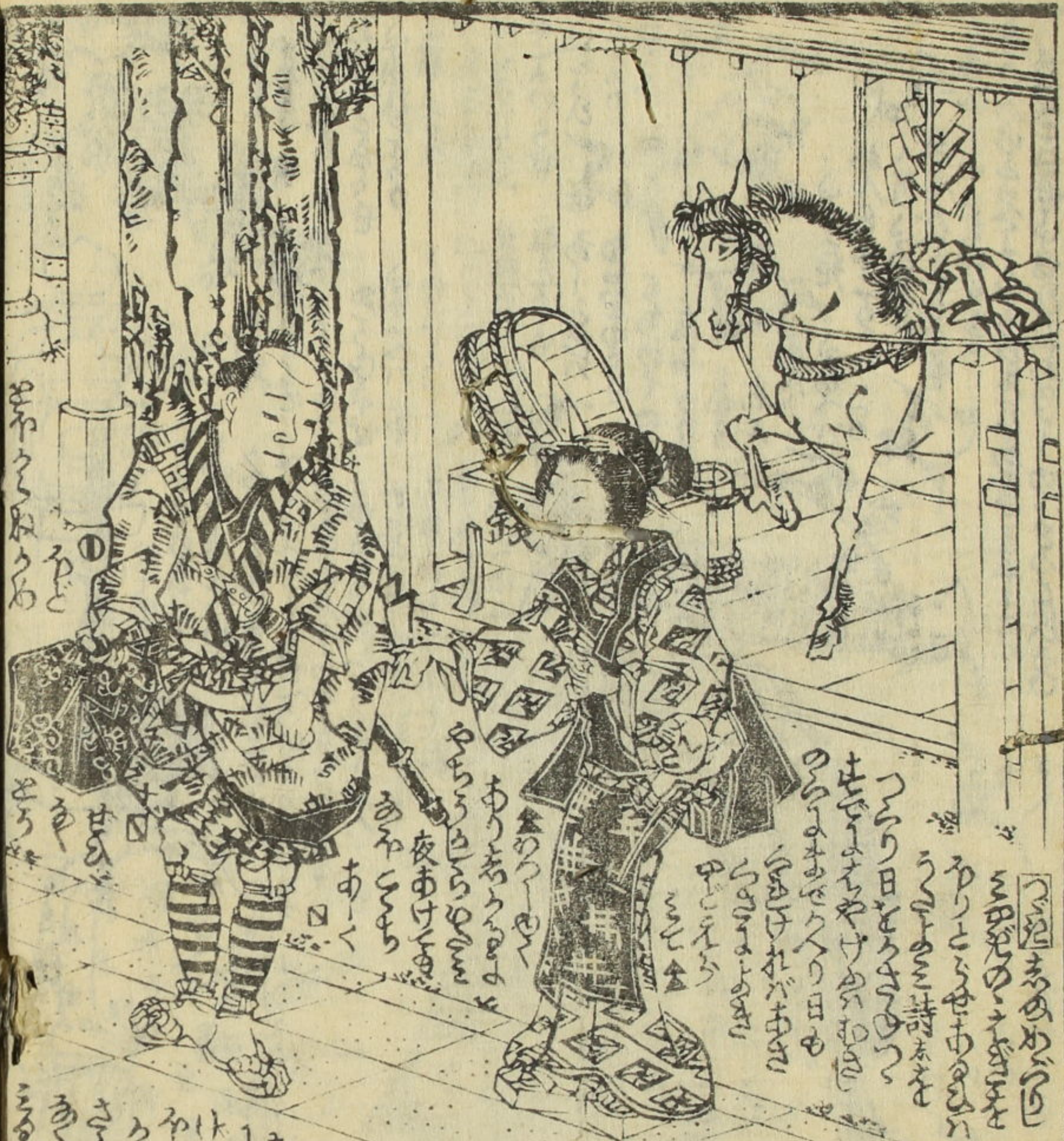


息長壽丸衛門

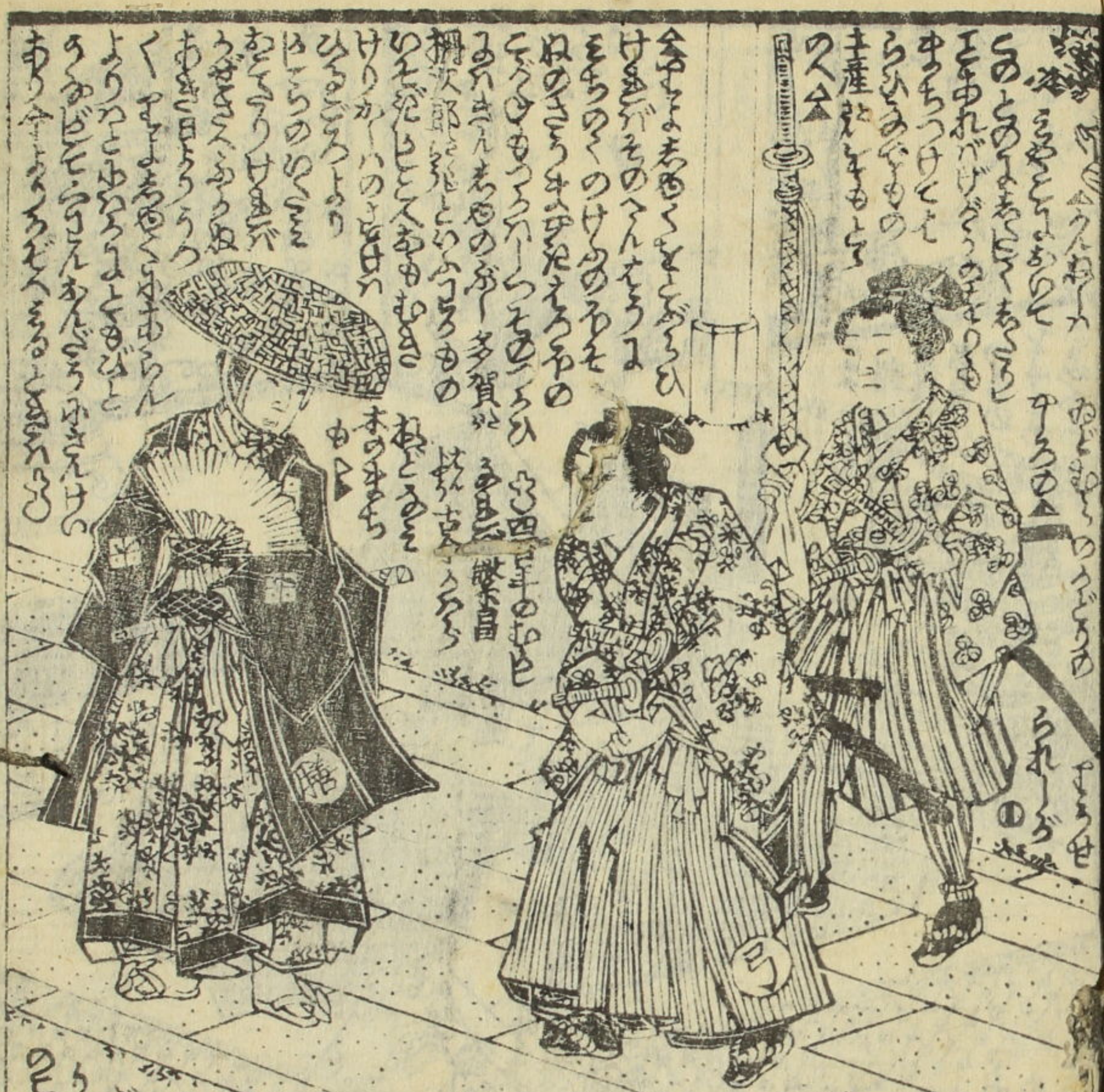


○新山義政公の柳子四男の七五郎
あつりけりその才七の
あつりけりその才七の
常徳院殿の御
義尚公の御
あんた

名物
柳屋



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a story or dialogue related to the illustration above.



Handwritten text in a cursive style, continuing the narrative or providing commentary on the illustration above.





種彦作國貞画

御用藥所 信州上田東山堂製

包 四十八錠
包 廿四錠

實母散

私方良母さんのお薬の中をくぐりぬぐいし一丁目西の
おてき来賣取の薬のりは店もあつたが、おてき来賣取の
向うのりは、おてき来賣取のりは、おてき来賣取のりは、
千種酒造り、御用藥所、御用藥所、御用藥所、御用藥所、
千種酒造り、御用藥所、御用藥所、御用藥所、御用藥所、

七ふらぎの葛飾譚

自由編到五編當り多巻
六篇以下引續賣出中
種彦作國貞画

古来本所の言傳、怪談奇聞と採擇長物語、綴り、年々編と重なる年々、
作者の構思當年、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、
ら、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、
実、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、
極、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、年々、
紅英堂發行



神楽作

初編下

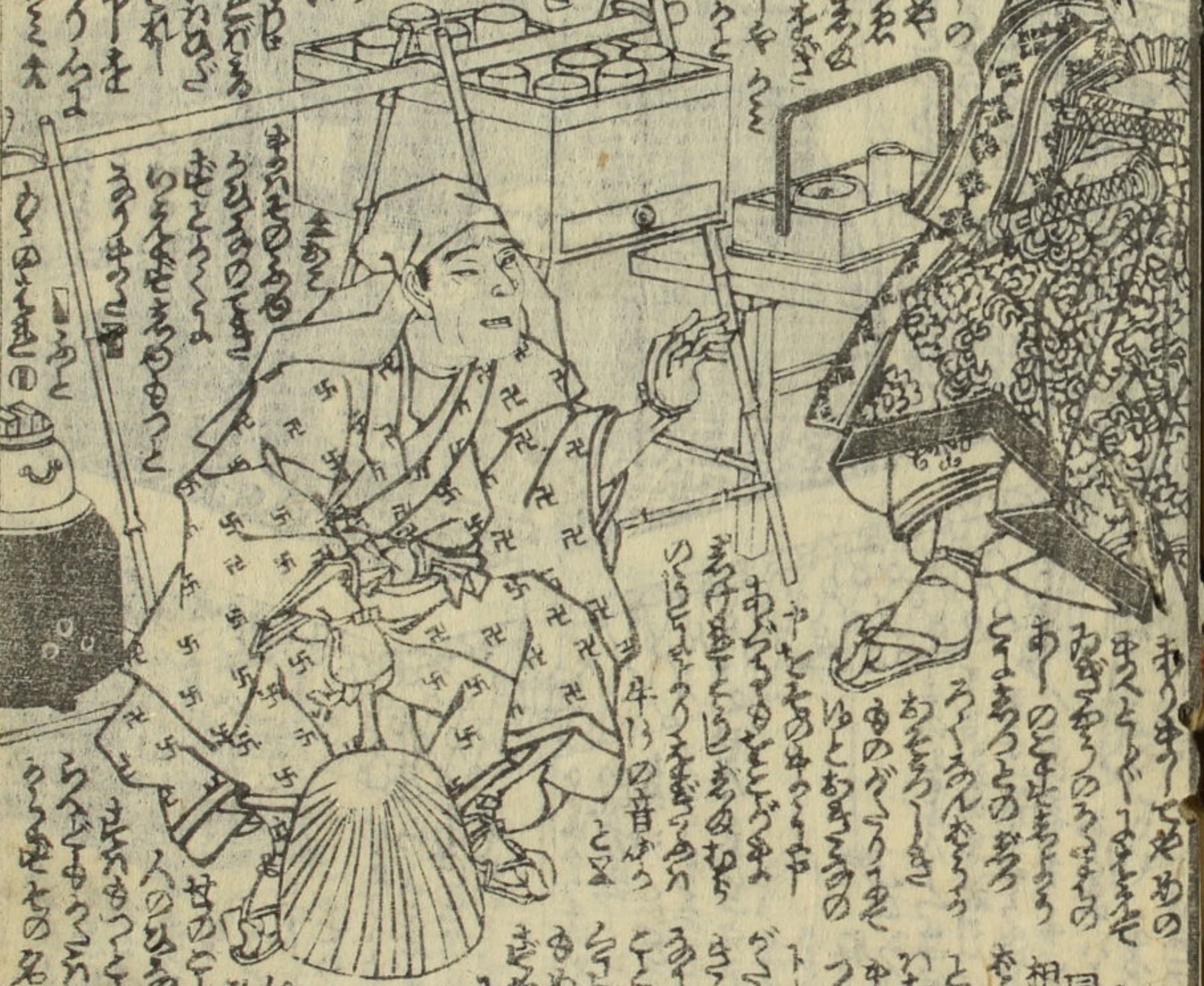
河内清



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text, located on the right page of the manuscript.



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text, located on the left page of the manuscript.





葛飾謹初
の
御
手
紙
の
巻
末
に
書
き
し
る
事
は
...

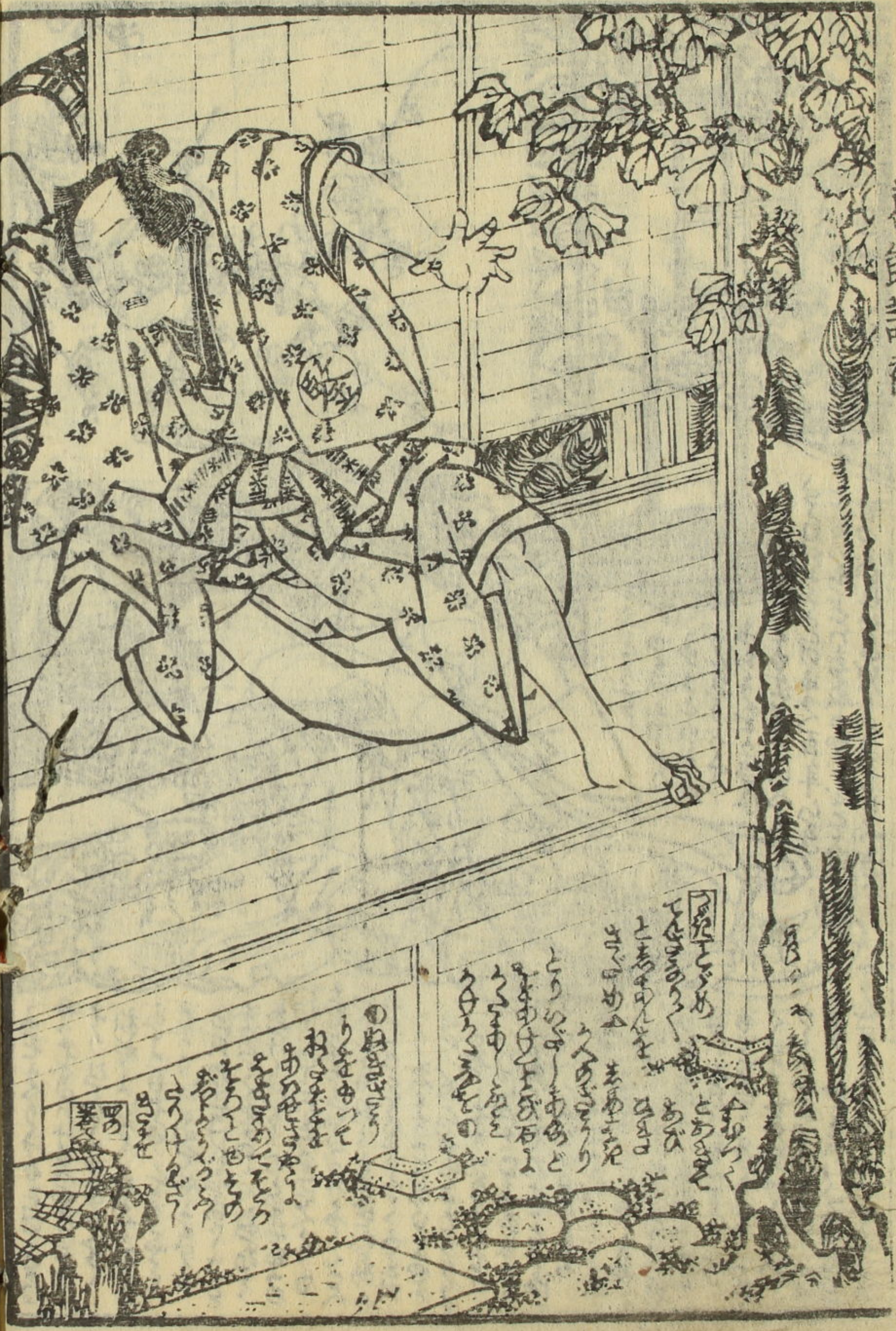


葛飾謹初
の
御
手
紙
の
巻
末
に
書
き
し
る
事
は
...

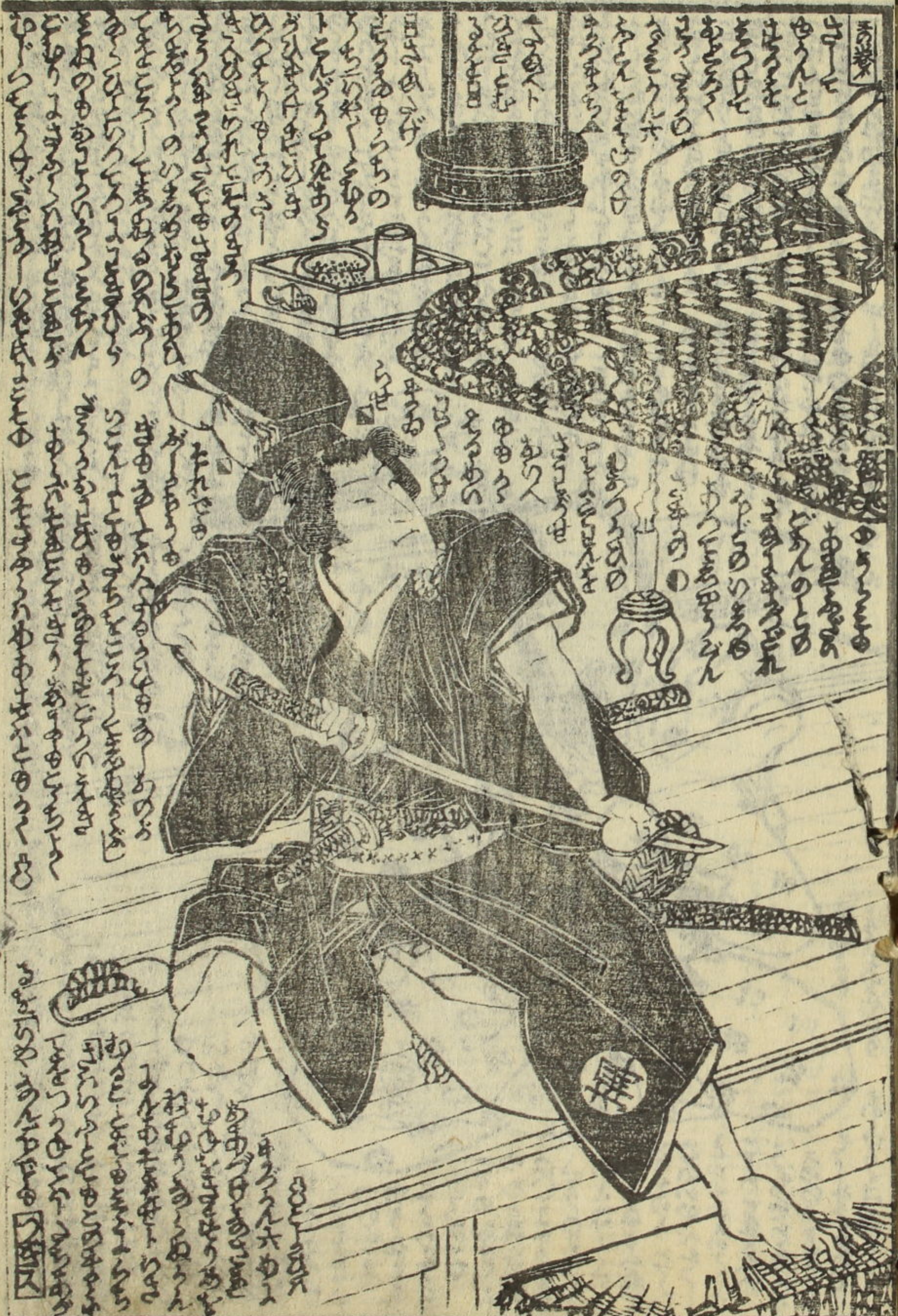
葛飾謹初

勝
の
御
手
紙
の
巻
末
に
書
き
し
る
事
は
...

十一



葛飾節調初
この節調は
江戸の節調
の初めである
と云ふ
は
江戸の節調
の初めである
と云ふ
は
江戸の節調
の初めである
と云ふ
は



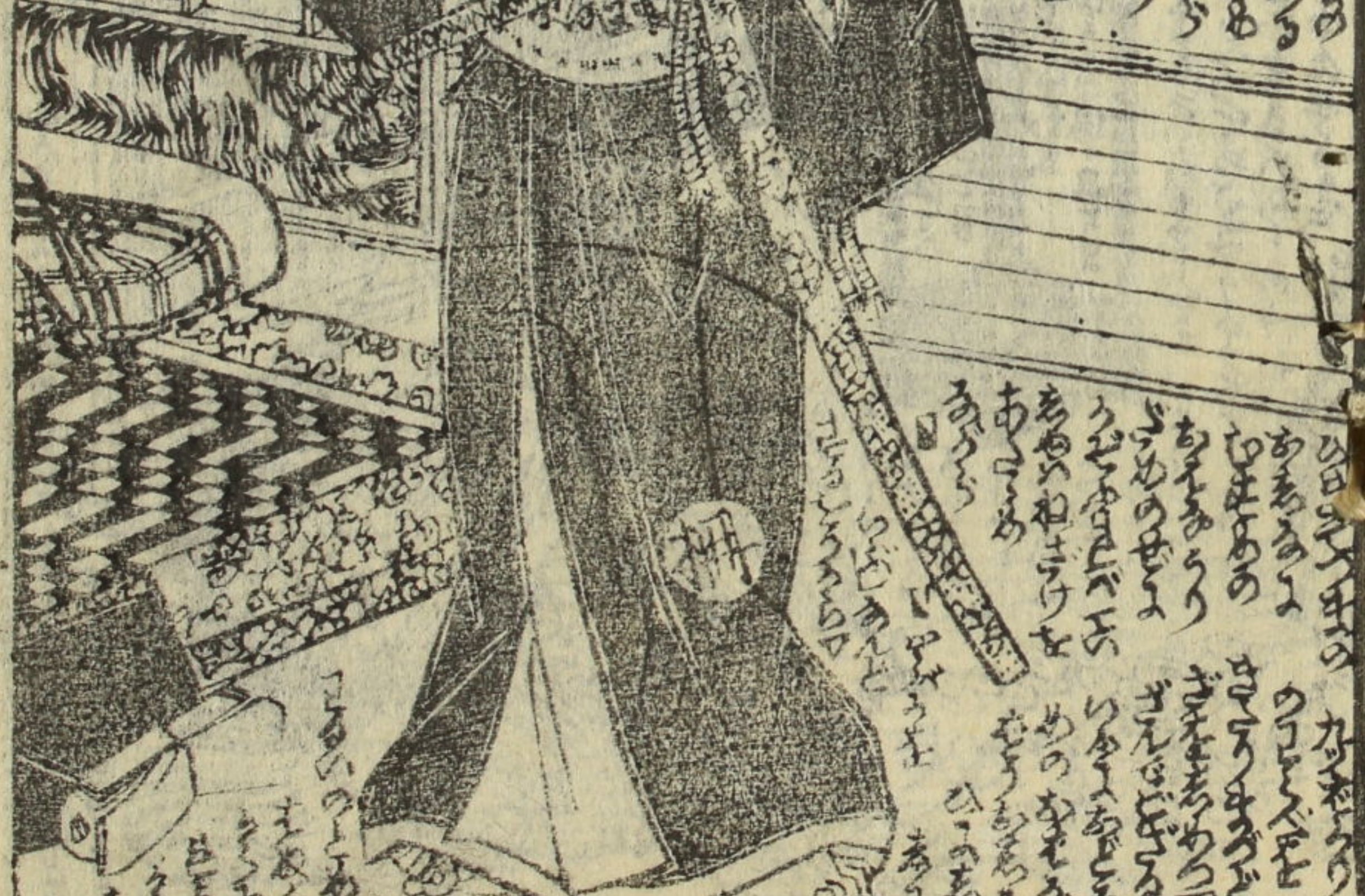
葛飾節調初
この節調は
江戸の節調
の初めである
と云ふ
は
江戸の節調
の初めである
と云ふ
は
江戸の節調
の初めである
と云ふ
は

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or narrative, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese or Chinese, surrounding the illustration on the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese or Chinese, surrounding the illustration on the left page.





葛飾の酒は
 名酒といふ
 人も多し
 其の味は
 清く芳し
 故に酒を
 嗜む人は
 多くて
 其の酒は
 名酒といふ
 人も多し

酒を嗜む人は
 多くて
 其の酒は
 名酒といふ
 人も多し
 酒を嗜む人は
 多くて
 其の酒は
 名酒といふ
 人も多し



葛飾の酒は
 名酒といふ
 人も多し
 其の味は
 清く芳し
 故に酒を
 嗜む人は
 多くて
 其の酒は
 名酒といふ
 人も多し

酒を嗜む人は
 多くて
 其の酒は
 名酒といふ
 人も多し
 酒を嗜む人は
 多くて
 其の酒は
 名酒といふ
 人も多し

葛飾の酒

種彦作

三助

國貞画



室町源氏胡蝶卷

五編 柳亭種彦作
八編 梅蝶樓國貞画
名馬切かどり

新編九尾傳

為永春水作
梅蝶樓國貞画

假名情談戀睡倉

三編 如泉作
四編 國貞画

童謡妙々車

十八編 種彦作
十九編 國貞画

薄倖幻日記

十三編 春水作
十四編 國貞画

地本双紙問屋

鳥屋吉藏板

筆海四國聞書

八編 種彦作
九編 國貞画

明鶴墨画廻轉檣

九編 種彦作
十一編 國貞画

花封巻五章

九編 種彦作
十編 國貞画

大傳大の双紙

四編 柳亭種彦作
五編 國貞画

